

埼玉県川越市教育委員会

【総人口】 352,740人

【自治体 関連URL】 <https://www.city.kawagoe.saitama.jp/>

【主担当部局】 川越市教育委員会教育指導課
（公立小学校担当）

【主な関係部局】 川越市市長部局保育課
（保育所・認定こども園担当）

	幼稚園			保育所		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数	0	0	21	20	41	0	10	0	32	1
園児・ 児童数	0	0	3,309	1,545	3,012	0	1,054		16,908	480

事業実施地域・
協力園校

【実施地域】

川越市

【協力園校】

幼：私立幼稚園2園、私立保育所1園、市立保育園2園

小：公立小学校5校

架け橋期の
カリキュラム開
発会議

【会議委員人数】

10名

【開催数】

計10回

【委員属性】

私立幼稚園副園長1名、市立保育園長1名、公立小学校長1名、大学教授1名、大学副学長1名

事務局（教育指導課 課長、副課長、副主幹・保育課主査）

架け橋期の
コーディネ
ーター等

【配置人数】

1名

【経歴】

・ 大学教授

架け橋期の
カリキュラム

【開発主体】

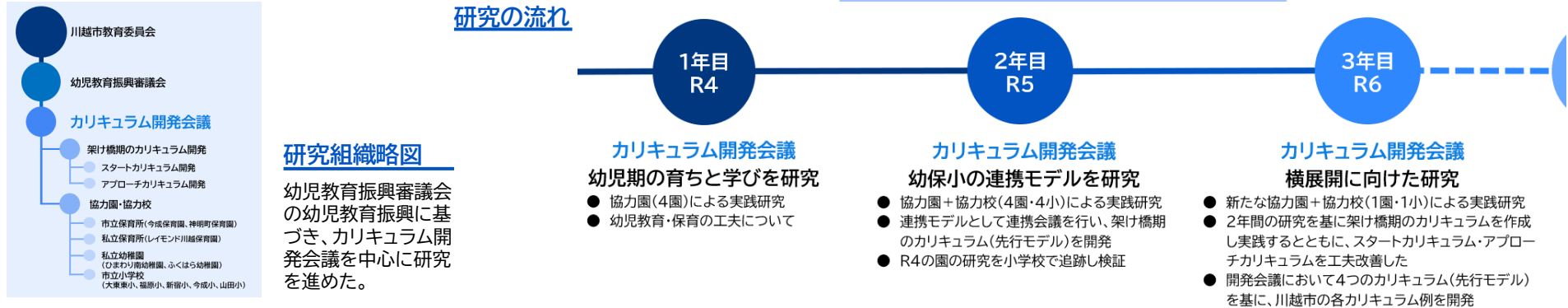
- ① 私立幼稚園、市立小学校
- ② 私立幼稚園、市立小学校
- ③ 私立保育園、市立小学校
- ④ 市立保育園、市立小学校

埼玉県川越市教育委員会

1 事業実施の目的

本市では、川越市第3次教育振興基本計画において、「一人一人の子供の発達や学びを、切れ目のないようにつなげ、学びや成長を確実に受け止め、次の段階で一層発展できる教育・保育を目指す」と示している。その具現のために、幼稚園・認定こども園・保育所において、「川越市ときも学びのプロセス」を基盤とした「幼保小連携モデル指定研究」を行い、教育の内容、方法、及び連携の在り方について研究を進めてきた。また、研究の成果を周知し、教育課程編成・指導計画作成等の前提となる「架け橋期のカリキュラム」を作成し、共通理解を図り実践していくことで、市全体で学びの連続性をふまえた未来へつながる力を育てていくことを目的として取り組んだ。

2 事業実施体制と取組内容



3 事業を実施する過程で生じた課題と、解決方法

本市は公立の保育園のみを設置しているため、私立幼稚園・認定こども園との連携が課題であったため、解決方法として、幼児教育振興審議会において、本事業の趣旨及び事業計画を説明するとともに協力を依頼することで、私立幼稚園・認定こども園協会、私立保育園協会の代表者を通じて、各園へ事業を共有した。

4 事業の成果と今後の課題

- 協力園・校で「子ども像」等を共有し架け橋期カリキュラムを作成することができ、「育ちと学びの共有」「職員の交流」「子供の交流」を行うことができた。
- 架け橋期のカリキュラムを作成するためのフォーマットとなる「川越市架け橋期カリキュラム」「川越市スタートカリキュラム」「川越市アプローチカリキュラム」を開発することができた。3年間の研究が市全体の幼保小の連携を推進することの重要性の再認識となり、今後の指針とすることができた。
- ▲各カリキュラムの作成・活用方法について周知し、園・校の具体的な実践を支援していくこと。
- ▲持続可能な幼保小の連携を推進するために、既存の幼保小の職員の交流の機会を中心とした取組を充実させるとともに、新たな交流を機会の設定を検討していくこと。

5 川越市架け橋期のカリキュラム

共通の視点

【主な共通の視点】

- 園(5歳児)

架け橋期カリキュラム（〇〇保育園・〇〇幼稚園・〇〇認定こども園/〇〇小学校）※本カリキュラムは公立保育園を基本としています。

子供像の共有

活動の可視化

園・校の特色ある取組

小学校1年生

架け橋期のカリキュラムを効果的に活用するためにも、入学からのおよそ1ヶ月の期間がとても重要であり「川越市スタートカリキュラム」を活用して具体的な実践につなげる。

カリキュラム作成がゴールではなく、実質的な連携や実践につなぐために



3年間の研究を通して、特に協力園・協力校において実際に架け橋期のカリキュラムを差作成・活用する中で培った、流れを市内の園・校へ研修を通して共有していくことが重要である。

左のStep1～Step5は、これまでの研究から本市が整理した、カリキュラムの作成・活用の流れを図示したものである。

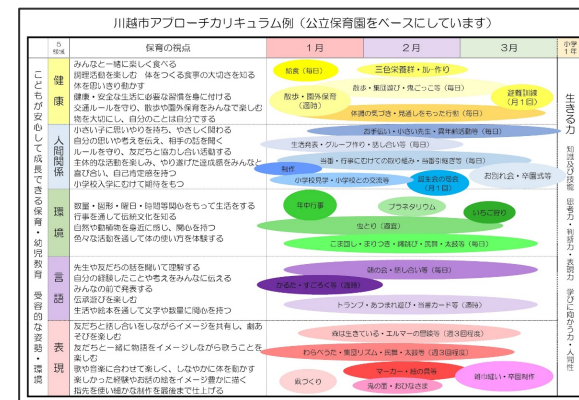
各園・各校での実施にあたっての参考として、市内の研修会等で継続して周知共有していく。

幼保小の連携を支える資料として

また、幼保小の連携を支える資料として、子供の学びのプロセスを可視化した「川越市ときも学びのプロセス」や、架け橋期的カリキュラムを効果的に活用するために「川越市アプローチカリキュラム」と「川越市スタートカリキュラム」を作成した。



川越市ときも学びのプロセス



川越市アプローチカリキュラムと川越市スタートカリキュラム

[illegible]

埼玉県川越市教育委員会

7 架け橋期のカリキュラムを実践したことによる先生方の指導や子供の姿の変化

教職員の交流が意識を変える



先生方の姿

「教職員の交流」を通して、架け橋期のカリキュラム等を協働して創り上げる中で、幼保小の連携の「大切さ」や「必要感」への意識が変わる。

- 幼保小の連携においては「教職員の交流が大切である」と改めて意識するようになった。
- 幼保小の子供の育ちや学びには、どのような経験があるのかを共有することができた。
- 「連携してよかった」という多くの声があった。

子供の経験を生かした指導へ

「教職員の交流」や「架け橋期のカリキュラム等」で、子供の経験を共有したことで、より子供の経験を生かした指導に変わっていく。

- 園での経験を意識して読み聞かせ、歌、運動、遊びの要素を生かし指導することができた。
- 「園でやったことある?」「〇〇したことある?」といったように小学校での指導で、園での経験を共有するための声掛けが多くなった。

一人一人の育ちと学びを柔軟に

幼保小の連携が、改めて子供たち一人一人の育ちと学びをていねいに見取り、柔軟にカリキュラムや指導を工夫していくように変える。

- スタートカリキュラムで、モジュールでの活動。
- 子供たち一人一人を見取る意識や指導は、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現するための土台となる実感をもてた。

小学校入学への安心感と期待感

「教職員の交流」や「子供同士の交流」が、小学校入学への子供の意識の変化につながる。

- 入学先に限らず、小学校という場を知る機会が小学校を「身近に感じる」という安心感や期待感につながった。
- 自分の気持ちを伝えることだけでなく、自分の話を友だちが聞いてくれる嬉しさや、友だちの話を聞く大切さを実感した。

経験を生かし学校生活のスタート

「スタートカリキュラム」で、園での育ちや学びの経験が、小学校でも生きることが実感できる授業での学校生活のスタートにつながる。

- 幼児期での読み聞かせや運動や遊びの延長線上に、小学校の授業があることが、学習への安心感につながり、学習への意欲や自信となった。

安心した環境の中で人間関係を築き学ぶ

「スタートカリキュラム」で、学校生活のスタートにつまづかないことで、安心した環境の中で人間関係を築き、学びを広げていく。

- 幼児期の経験を、生活科を中心に様々な教科の学習に生かすようになった。
- 「学校は楽しい」という気持ちが意欲・主体性・自信につながり、不登校が減少した。



子供の姿

8 幼保小がお互いを認め、尊敬し合う持続可能な連携を推進し、未来につながる力を育む

- 1 教職員の意識の変化を更なる連携へとつなぐ
- 2 架け橋期のカリキュラム等を活用し横展開を
- 3 47年目を迎える幼保小の連携

本市での幼保小の連携は、半世紀近くの歴史があり、義務教育である小学校と公立の保育所だけでなく、私立の幼稚園・認定こども園、私立の保育所など関係団体の協力の下、子供たちのための連携に取り組んできました。3年間の研究を経て、実際の教職員の交流を大切に連携していくことが、取組を持続可能なものにしていく最も重要なことであると実感しました。教職員の交流という第一歩を、各園・各校が踏み出すことができるよう、架け橋期のカリキュラムに関する研究を、川越市の幼保小連携の新たな柱の一つとしていきます。